

## 背景・経緯

### (1) 新規課題の設定の考え方

- 新規課題については主任研究者はセンター職員とする。(intramural)
- 継続課題については独法化の方針がまだ定まっていなかった時期に始まった3年目を迎える課題(H20年度班)については、例外的に外部者も引き続き主任研究者となれる。
- 交付金の一部であるため、全体の2割強は共通経費である人材育成特別枠として確保する。
  
- 精神・神経疾患研究開発費の新規課題については、精神・神経・筋・発達障害の各分野毎または基盤整備特別枠に設定し、下記の趣旨に合致するよう、各分野ごとに継続課題(原則3年)を経年的に整理する。
  - ① センターが各4分野の研究の中核機関として自ら行う高度・先駆的医療の推進に資する開発的研究（エクソン・スキッピング等）
  - ② センターが全国の各4分野の研究を支援し、発展させるための基盤的研究（リサーチリソースの充実、ナショナル・レジストリー等）
  - ③ 医療の均てん化の促進に資する臨床的研究（ガイドラインの普及等）

### (2) 従来精神・神経疾患委託費の課題の設定方法

- I期終了課題、II期終了課題について、主任研究者(外部者含む)に対し、新規課題の提案をしていただき、提案課題を元に新規課題をセンター内で整理。
- その他、センターにおいて必要な研究については、別途、新規課題を設定。

### (3) 平成22年度予算

約1.5億円の増額（H21年度 8.56億→ H21年度 10.12億）となるが、国立高度専門医療センター特別会計から、独法化に伴い交付金の一部へ大きく変更。

疾病の病因・病態の解明  
(予防法・診断法・治療法の開発)

トランスレーショナル・リサーチ

多施設共同研究の推進

臨床研究・治験の推進及び統括

希少疾患等に係る医薬品・医療機器  
の開発

医療の均てん化の促進

患者のQOL・ADLの向上及び社会  
復帰推進、セルフマネジメント

- リサーチリソースネットワーク
  - ・各種レポジトリ(筋、脳、液性検体等)
  - ・モデル実験動物基盤研究

- プロジェクト型研究
  - ・疾患の病因病態の解明・治療法の開発
  - ・エクソン・スキッピング
  - ・バイオマーカー探索
  - ・エピゲノム解析の技術開発

- 患者登録 (ナショナルレジストリー)
  - ・臨床情報、画像リファレンス、遺伝子情報等

- プロジェクト型研究
  - ・各種診断・治療ガイドラインの策定、検証
  - ・地域医療連携・ACT等
  - ・標準的医療の普及啓発
  - ・CBT研修による人材養成

- 若手研究グループ、専門疾病センター